
を作ろうとした話 ~ With that alone it was paradise. ~

五月

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

国を作ろうとした話 With that alone it
was paradise }

【Nコード】

N5628I

【作者名】

五月

【あらすじ】

モトラド（注：二輪車。空を飛ばないものだけを指す）に乗って、いろいろな国々を廻る、旅人「キノ」の話です。
二次創作。

（前書き）

初投稿です。

初めまして、五月と言います。

2年ほど前に書いた話を、直してみました。

キノやエルメスの口調、話自体といろいろな気になる所があったりするかもしれませんが、よかったら見てやってください。

海の近くを、つまり砂浜を一台のモトラド（注：二輪車。空を飛ばないものを指す）が走っていた。

運転手は若く、十代半ばほどに見える。

茶色の長いコートが暴れないように、自分の足に巻きつけていた。黒髪の上からは、たれの付いた帽子を被っており、ところどころが剥げたゴーグルをかけている。

「キノ、あれじゃない？」

潮風が涼しく吹く中、運転手に誰かが話しかけた。

「ん？ 僕にはまだ見えないよ」

キノと呼ばれた運転手は、ゴーグルを外しながら言った。

「肉眼じゃ無理か」

空は晴れていた。雲は、散りばめられた紙切れのように、空に浮かんでいる。

キノの瞳に、その雲が映る。

その時、キノの達がただ砂浜を走っていると、

「あ」

太陽が雲で隠れた。

同時に、キノが力なく呟く。

「見えた」

キノが少し走った先に何かを見つけた。

それは、遠くからだとしルエットのようで、何なのか全く判らなかった。

キノは少しエルメスの速度を上げ、それに近づく。

「なんだろう。随分黒いね。家が」

「そうだね………凄く、黒い。というか黒しか、ない………」

エルメスとキノが見たままをそのまま言葉にする。

それは、暗闇に溶け込めるほどに、黒しかなかった。

「ね。家の中まで黒かな？ 招かれるといいね」

エルメスは面白そうに、キノに言う。

「いや………招かれることはないよ。エルメス」

「何で？」

キノは黙って指を指した。

「あー、なるほどね」

エルメスが高い声で、特に驚きもせずに納得した。

目の前に在る、映る黒は、すでにもう国ではなかった。

家は壊れ、草も枯れ、人間は一人も見当たらない。

キノはその黒の手前で、エルメスをエンジンはそのままにして止める。

「ココで、何があっただんどう？」

「さあ………少し見て廻ろうか？」

「りょーかい」

キノはエルメスに再びまたがり、国だった場所を廻り始める。

だが、どこもかしこもその黒い物体しか見当たらなかった。

「見事に何も無いな」

「見事に何も無いね」

二人は、少し言い方が違うだけで、全く同じ意味の言葉を発する。

「隕石でも落ちたみたいな有様だね」

「落ちてたら大変だけどね。でも何かあったんだろうね。戦争とか？」

「でもこの近くに国は無いよ」

エルメスの言うとおり、周りに国はない。

キノはそうだった。と15分ほど前のことを思い出す。

「この国のことは誰も知らなかったね」

「すれ違った旅人もそんな国は見なかったよ。ってね」

「いったいどうなってるんだ？」

「謎のまま帰ることになりそうかも」

「それは一番嫌なパターンだな……」

「それが実現しそうだよ。もうしてるかも」

エルメスがキノに呟く。

「……………」

「帰る？」

「もう少し、見てみよう」

「さいで」

黒だけが永遠と続く場所をしばらく廻った頃、キノはエルメスから下り、エルメスを押しながら壊れた家を1つ1つ見ていく。

崩れそうにない家を選んで、1つ1つ中を覗く。

「ん？」

「どうしたの？ キノ」

5件目で、キノが何かに目をやる。

キノはエルメスをスタンドで立たせ、黒こげの家の中へと足を踏み入れる。

そして、それを手袋をしたまま掴み、エルメスのいる所まで持つてくる。

「これは何かな？」

「うわ、家同様、凄い黒こげの箱。開くの？」

「判らない。でも、試してみよう」

キノがそう言って箱を地面に置いて、手をかけた。

「どう？」

エルメスがキノに訪ねる。

「ちよつと……………まって……………」

次第に箱からギギギギという耳に残る、とても嫌な音がし始めた。

そして。

「つと……………!？」

箱の蓋が、軽く埃を撒き散らせ、バコツという音をたてて開いた。キノは箱の中をそつと覗く。

「何々？ 何の箱？」

それを見て、エルメスは楽しそうにキノに尋ねる。

「これは……ノート？」

黒こげの箱の中に、埃が多少かかっているものの、小奇麗なノートが姿を表した。

「ノート？ 何かに何か書いてあるの？」

キノはそのノートを箱から取り出し、静に捲る。

ペラツとノートから音がして、それが時期に止む。

「書いてある。多分、日記だ」

「日記？」

「でも、字が……見たこと無い字だ」

「どれどれ？」

キノはその日記をエルメスに見えるように広げる。

エルメスはそれをしばらく眺めて、

「読めそうだよ。どうする？ 読む？」

「じゃあ少し読んでみて、興味が無い内容だったら次に廻る」

「了解」

エルメスは日記を読み始めた。

『この土地は、最初はただの広い草原だった。そこに私が辿りついたのは10年ぐらい前の事だ。私は自分の国を出てきた人間だった。私の国は本来旅はしてはいけない。だが、私はどうしても旅がしたくて黙って出てきたのだ。だが旅をしたことのある人間が身近になかったため死にそうな日々の連続だった。旅がこんなに恐ろしいものだったとは、と私は後悔した。間違っていたのは私で、国の皆は正しかったのだ。私はこれから国に戻るか？ と思ったが国の皆が私をまた国の住人として認めてはくれないだろう。そう思った時、この草原に辿りついた。その草原は国一つあってもおかしくないほど広がった。そこで思いついた、国に戻れないのなら国を作ればいいのだと』

「どうする？ 続きを読む？」

エルメスが再確認する。

キノは黙ったまま頷いた。

「まず、国には何があるか？ と考え真っ先に「人」だと思った。なので、私は何年もここを通りかかった旅人に「此処に住まないか？」と声をかけたが、旅人は誰一人OKとは言わなかった。人が集まらないのでは意味がない。そこで私は人に近い生物を作り出す実験をした。何年かかっただろう。やがて、1人が完成した。それは人格もあり、言葉も話す。まさに人間だった。だが人間にはとどかない、そんなモノができた。私はもう1人を作り、人間のように子は残せるのか？ と実験をした。それは成功した。彼らは人間と同じで子は生める、話せる、人格もある、と申し分なかった。それから家を作り、国を囲む壁を作り、まさにそこは国になった。だが、充実した日々はそう長くはなかった。彼らは人間と同じで人格がある。・・・・国内戦争が始まった。人間と何も変わらない。でも、人間とは違う何か。その為、戦争が始まったのだろうか？ 私は何かミスでもしたのだろうか？ 国は真っ赤な炎に包まれた。私はこの記録を日記にして残す。鉄の箱に入れておけば燃えずに残るだろう。溶けはするだろうが問題は無いと思う。そのうちココは国だった場所になるのだろう。いや、そもそもココは国だったのだろうか——？」

「・・・・・・・・・・・・・・・・」

エルメスが読み終わり、キノがなるほど。と呟く。

そしてもう1度国を廻り何も無い事を確かめ、キノはエルメスにまたがる。

「どう思う？ ココは国だったかな？ それとも戦場だったかな？」
キノはその問に答えず、

「人のようなそのモノは人格があった。本当に人間に近かったんだろ？」

「でも、完璧じゃないから戦争した？」

「いや、人格がある。って時点で起きない事じゃないさ」

そう呟いてエルメスにまたがった。

そして、エンジンをかけて国を後にする。

「そんなもん？」

「そんなもんだろ。まあ、その“人じゃない何か”が本当にここにいたと信じるならだけど」

キノはそこで言葉を区切り、数秒後、また口を開く。

「人は常に戦争を起こす。そうじゃなくても、争いは起こる。人は嫌いな人間。好きな人間。意見が合う人間。合わない人間と出でくる。だから、戦争が起きるのは珍しい事じゃない。でも」

「でも？」

「それに気づかなければ、戦争は消えない」

キノはそこまで言い切って、

「いや。気づいても消えないかもしれない」

言い直した。

「消える日は来るかな？」

「さあね」

そこは、あの“国だった”場所に向かった時と同じで、砂浜だった。

来た時とは逆で、太陽は雲から顔を出していた。

<国を作ろうとした話>>おわり<

（後書き）

どうだったでしょうか。

キノはこう言ったと思う。

エルメスはこんな性格じゃない。

などがありましたら、よかったら教えていただきたいです^^；

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5628i/>

国を作ろうとした話 ~ With that alone it was paradise. ~

2010年10月8日15時26分発行